# (仮称) 八王子市男女共同参画推進条例の素案 (案) の考え方

# ▶ (仮称)八王子市男女共同参画推進条例検討会での主な意見

- 社会ではまだ、性別による無意識の思い込みがあると感じる。今のままで問題 ないと考えている人たちの意識を変えることが課題である。
- 誰もが男女共同参画社会についての理解を深め、家庭、職場、学校地域その他の社会のあらゆる分野において自ら進んで、男女共同参画の推進に寄与するよう努めることが必要である。
- 性別だけでなく、年齢や障害の有無、国籍などに関係なく誰もが参画できることが必要である。
- 企業で女性が活躍するための労働環境の整備は、大企業では少しずつ着手されているものの、中小企業ではまだ進んでいるとは思えない。その大きな要因は、男女ともに持っている無意識の男女の格差意識や古くから刷り込まれた社会的な男女の格差意識が改革されていないからではないか。
- 社会における労働環境に対して、古い考え方への執着をなくし、男女共同参画 進めていくメリットなどを情報共有することが必要である。
- 中長期的な男女共同参画の推進を見据えて、学生たちが卒業後も働き住み続け やすいまちづくりが必要である。また、安心して妊娠・出産できるまちであれ ば、未来を担う若者も定住するのではないか。
- DV やセクシュアル・ハラスメントなど性的な嫌がらせを含む暴力をなくすことが必要である。そのためには、幼少期からの教育により、男女がそれぞれの体のつくりについて十分な知識を持つことが必要である。
- 性教育やリプロダクティブ・ヘルス/ライツについて、段階に応じた適切な教育が必要である。

仚

### 市内事業者(11社)への意見聴取

実施日 令和4年(2022年)1月14日、19日

### ▶ 意見要旨

- ダイバーシティは「個」を尊重することが重要である。
- 持続的な企業経営には多様な人材の雇用が欠かせない。性別や年代によって意識に偏りがあったため、従業員の意識を変えていった。
- 働き方改革は企業の生産性が高くないとできないため、両輪で取組を進めていった。業務を属人化せず、多能工化することが必要である。
- 「男性だから営業」「女性だから事務」といった業務の割振りは変えていかな ければならない。
- 性別による配慮が必要な場面もある。しかし、本人にとっては不要な配慮である場合もあることを考慮しなければならない。

#### 地域活動を経験した若者等への意見聴取

実施日 令和 4 年 (2022 年) 1 月 28 日

## ▶ 意見要旨

- 地域ではリーダーは男性で、女性はそのサポートを担うことが多く、文化として家父長制度が残っているように感じた。女性がリーダーを務めている地域でも、男性の強い意見に流されてしまう場面があった。
- 女性はあまり表に立とうとしない。男性であれば若くてもリーダーになれるだろうが、女性では難しいという意識が根底にあるのではないか。
- 地域で反発し合っていたコミュニティが、学生が間に入ることで結び付いた。 地域は変化を嫌うものだと思っていたが、学生に新しいことをやらせてくれ て、それが地域の価値の創出につながった。



#### ▶ 条例のポイント

- 未だに男女共同参画が進んでいない要因の一つに固定的な性別役割分担意識や 無意識の思い込みがある。未来を担う若者に対して、幼少期から意識啓発を行 うことが重要。
- 企業によっては固定的役割分担意識が残っており、また、ワーク・ライフ・バランスが進んでいないため、男女共同参画が根付いている未来を担う子どもたちが社会に出ても違和感を持たないよう、社会全体で男女共同参画を推進していくことも必要。
- 災害・防災、子育て、介護などの地域課題を地域で解決していくには、多様な視点が欠かせない。
- 性別だけでなく、年齢や障害の有無、国籍などを含めた多様性を認めあえる社会であるために、まずは、なかなか進んでいない男女共同参画をこれまで以上に推進していく必要がある

参考 みんなで目指す 2040 年の姿

